

# 歴史・文化探訪の 里山歩き

——コースガイド

里地里山歩きのプロ・清水正弘氏が案内



## 毘沙門天参道からの 徒歩ルートを行く

この山はさまざまなアプローチ方法がある。それこそ車で山頂近くまでヒョイっと近づくことも可能である。確かに星空観察や夕陽、朝陽鑑賞などには車を利用していいだろう。ただ、この山の持つおくぶか（おくぶか）みりよく（みりよく）さんろく（さんろく）びしゃもん（びしゃもん）奥深い魅力を体を感じるには、ぜひ山麓の毘沙門天参道（びしゃもんだいえき）からの徒歩ルートを味わっていただきたい。

まず、アストラムライン「毘沙門台駅」から安佐中学校方面へと歩くと、中学校先の三叉路（3本の道が集まる交差点）に「権現山・毘沙門天参道・毘沙門堂これより1850米」という大きな縦看板がある。その標識からは住宅地の中を小さなカーブを繰り返しながら緩やかな上り坂が続いていく。この小さなカーブ道では、参拝客で賑わっていた昔の面影が懐かしく思い出され、心がほんわかするのである。

このコースであれば、初心者でも安心して歩けるだろう。ゆっくりめの標準コースタイムとすれば、毘沙門台駅から毘沙門堂間が片道約1時間。毘沙門堂から山頂までは往路45分、復路30分。休憩も含めると全行程4時間前後ではないだろうか。いずれにしても、スポーツ登山の対象の山としてとらえずに、歴史・文化探訪の里山歩きとしてこの山と接してもらいたい。

\*1 探訪：物事を見聞して歩きまわること

\*2 里山：さほど山奥ではなく、人の住む近くにある低い山や森

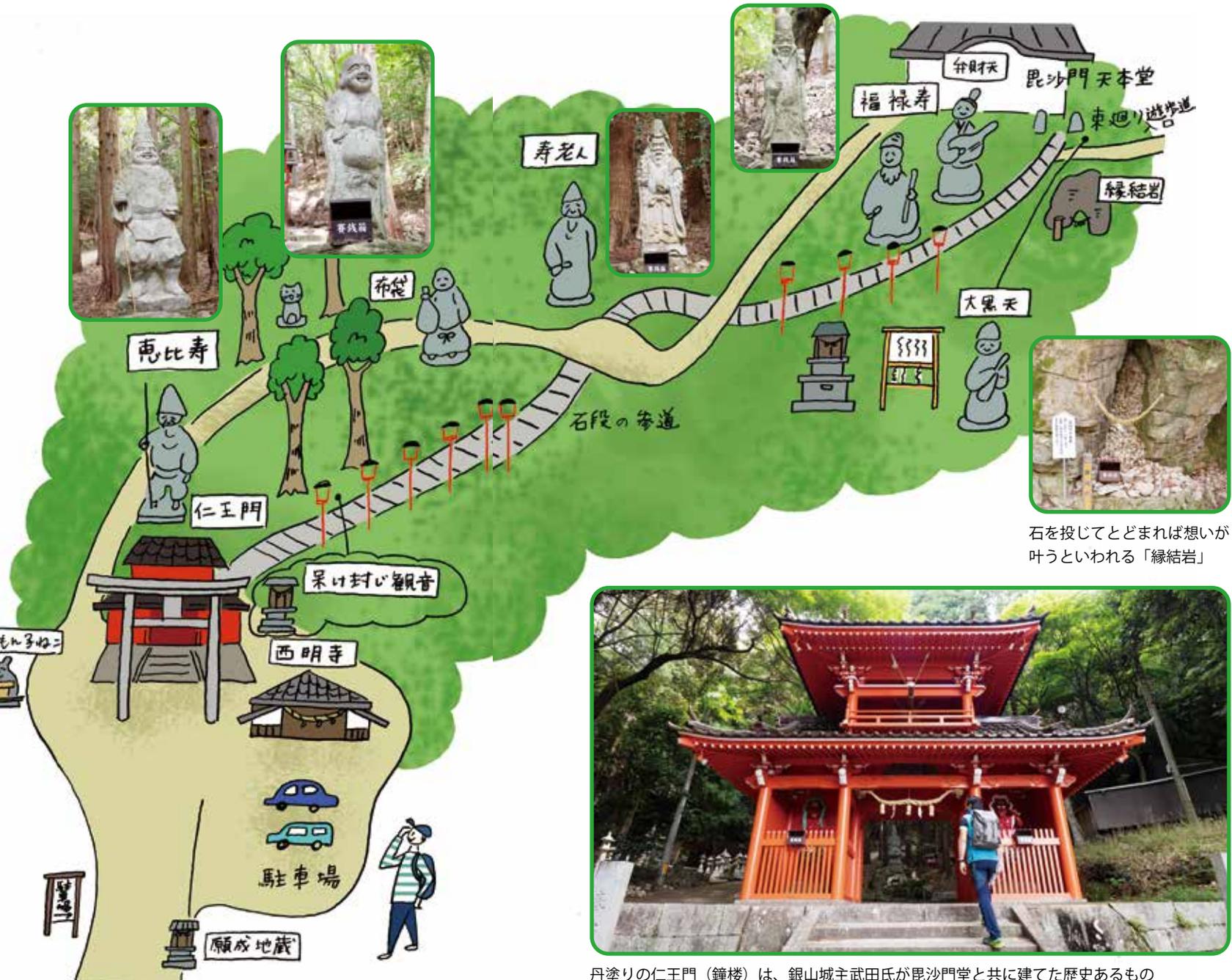


毘沙門天参道 ①

恵比寿さまが  
出迎えてくれる

毘沙門天入り口からは風景が一変する。まるで現代の聖なる場所との境界線の雰囲気とする赤い鐘楼をくぐると、釣り竿と魚を抱えた恵比寿さまが出迎えてくれる。ここから本堂までは、頭上から絶えず木漏れ日が降り注ぎ、足下の苔むした参道を不思議な空間に彩っている。

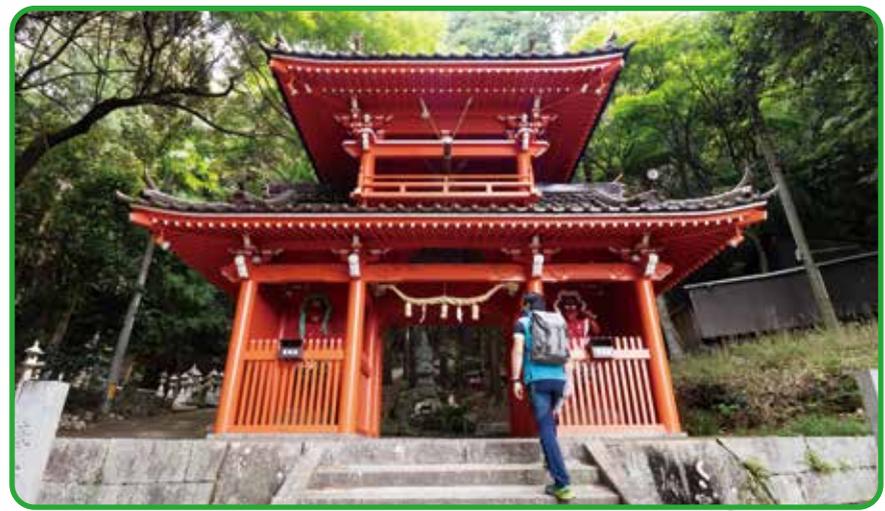
\* 3 鐘楼：寺院の境内にある、鐘（かね）をつるすための建造物



仁王門をくぐると大きな杉の木立。境内まで石段が続く



石を投じてとどまれば願いが叶うといわれる「縁結岩」



丹塗りの仁王門（鐘楼）は、銀山城主武田氏が毘沙門堂と共に建てた歴史あるもの

毘沙門天本堂 ②

荘厳な岩塊に  
圧倒される

本堂に到着すると、建物裏手にある巨大で荘厳な岩のかたまりに圧倒されるだろう。初寅祭の日には、この本堂で御本尊が開帳される。

\* 4 荘厳：重厚で神秘的なこと



かつて境内にあった大杉の株「御神杉」



本堂背後の見事な大岩



大岩石の中から現れた神石を祀った神石社



本堂脇の成就観音



毘沙門天の使いである百足を象った紋



初寅祭 授与品



虎のような姿の狛犬も毘沙門天の使い

西廻り遊歩道 ③

多宝塔からの眺めは最高

本堂脇からは、西廻り遊歩道を歩き里見の岩を経て、多宝塔へと向かう。多宝塔周辺からの西南方角の見晴らしは絶景であり、特に日が沈む時にはこの場所に佇みたくなるだろう。

多宝塔から山頂へは30分程度の登り勾配が続いていく。

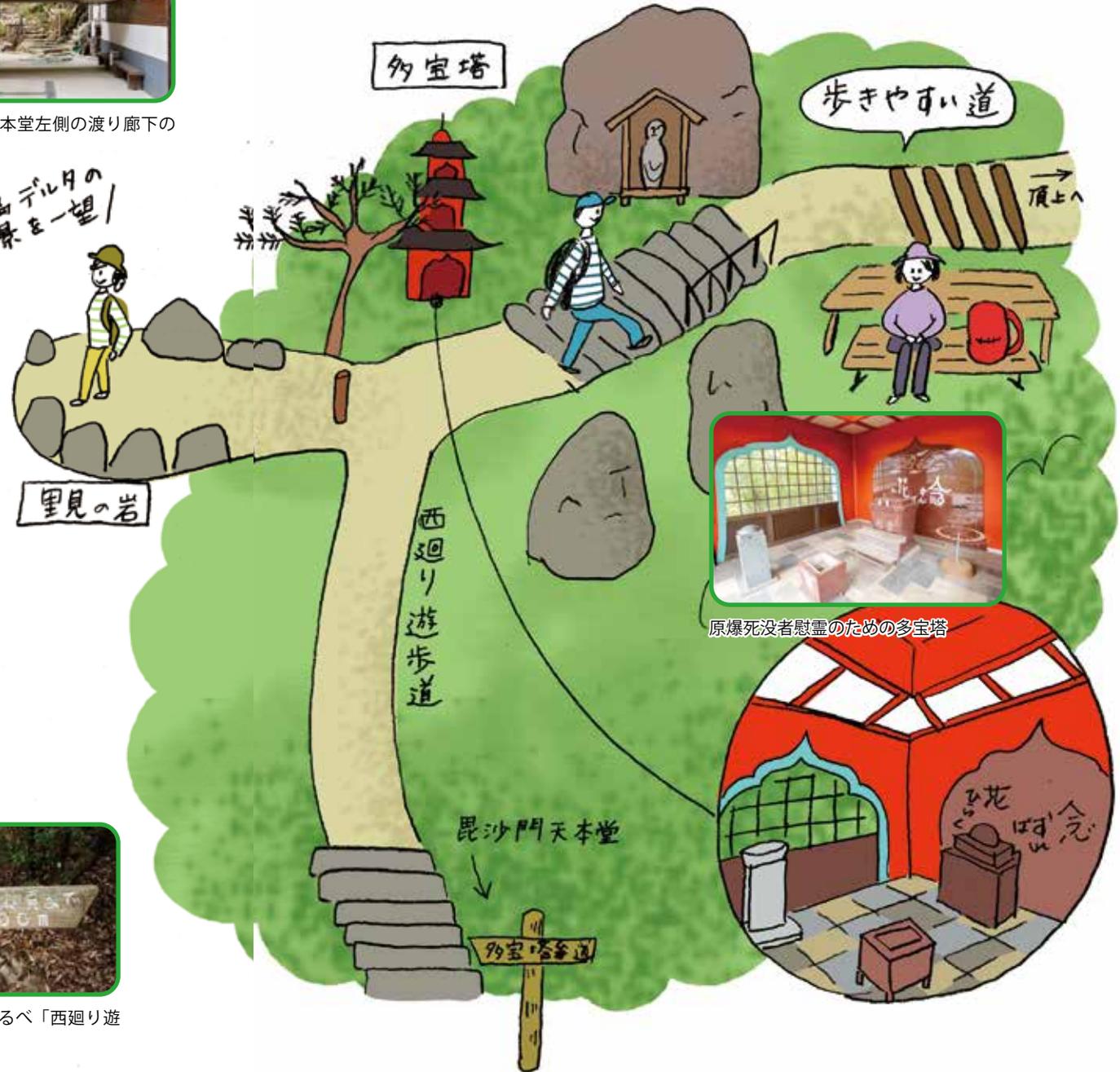
\*5 佇む：しばらく1か所に立ち止まる

\*6 勾配：傾斜面（けいしゃめん）の傾（かたむ）きの程度。斜面

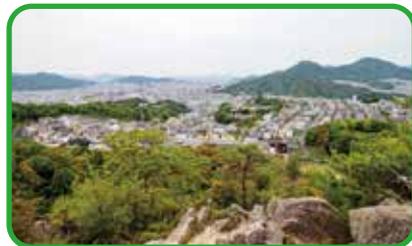


登山口は本堂左側の渡り廊下の向こう

広島デルタの  
絶景を一望！



多宝塔から眺める夕陽は思わず息を呑む絶景



多宝塔下にある自然展望岩「里見の岩」



登山口に入っすぐの道しるべ「西廻り遊歩道 権現山頂まで700m」

権現山頂上 ④

山頂付近は、春は桜、秋は紅葉が楽しめる

山頂にはテレビ塔があり、その南側に三角点もある。山頂付近は、春は桜、秋は紅葉が楽しめる。また、鳥越峠を越えて、阿武山への里山歩きも人気コースとなっている。

\*7 三角点：正確な位置を求める測量を行うときに基準となる点

権現山山頂の三角点



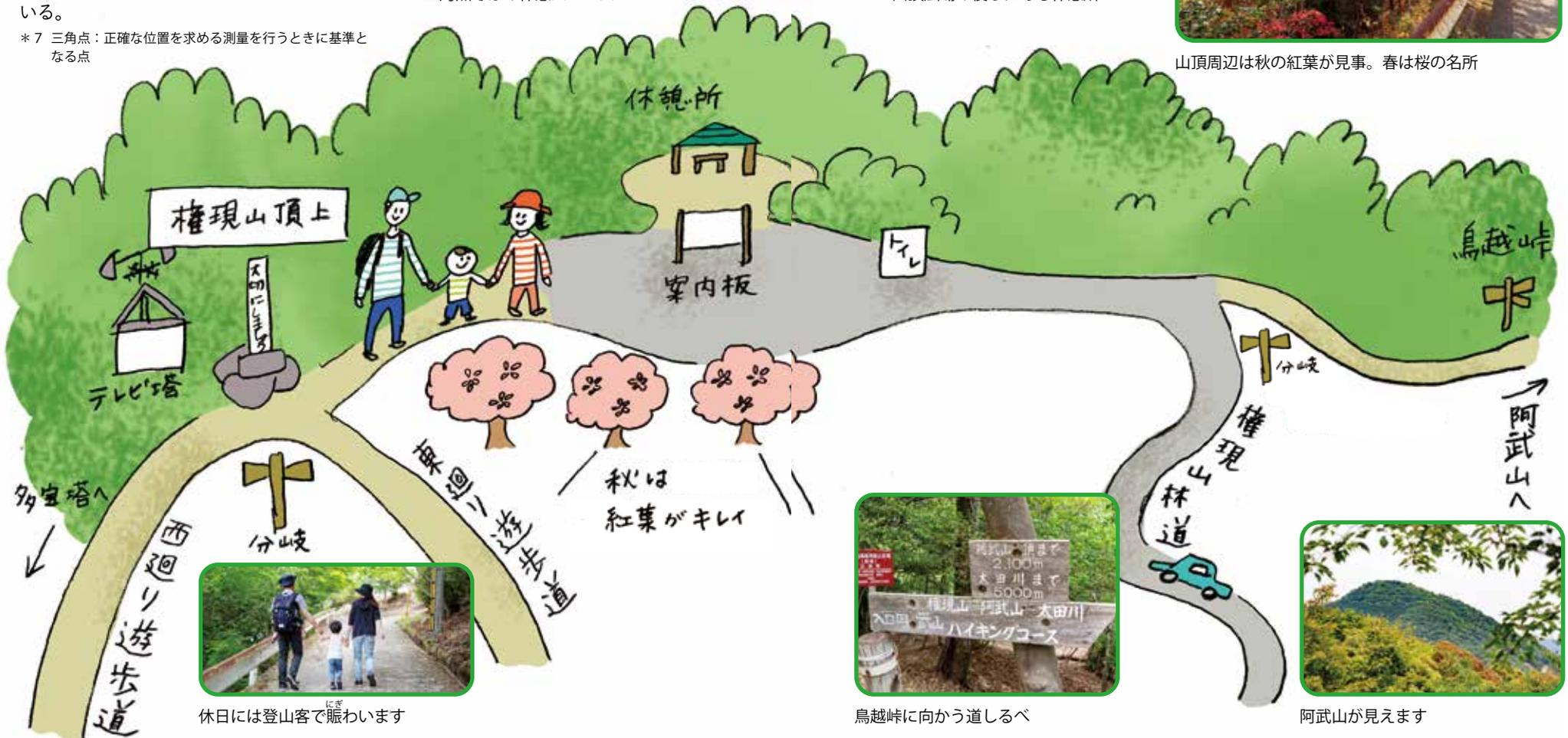
三角点そばの休憩スペース



山頂広場の後ろにある休憩所



山頂周辺は秋の紅葉が見事。春は桜の名所



休日には登山客で賑わいます



鳥越峠に向かう道しるべ



阿武山が見えます

東廻り遊歩道 ⑤

整備された山道沿いには、古墳の遺構も

復路は、山頂手前の分岐標識から東廻り遊歩道<sup>\*8</sup>を歩きたい。整備された快適なトレイル<sup>\*9</sup>沿いには、巨石群や古墳遺構、そして眺望ポイントなどが点在している。眺望ポイント手前の分岐からは毘沙門堂への山腹沿いの下り道を歩く。少し急な勾配<sup>こうばい</sup>の場所では慎重に足元を確認しながら進みたい。

毘沙門堂からは往路と同じ道をゆっくりと毘沙門台駅へと向かう。

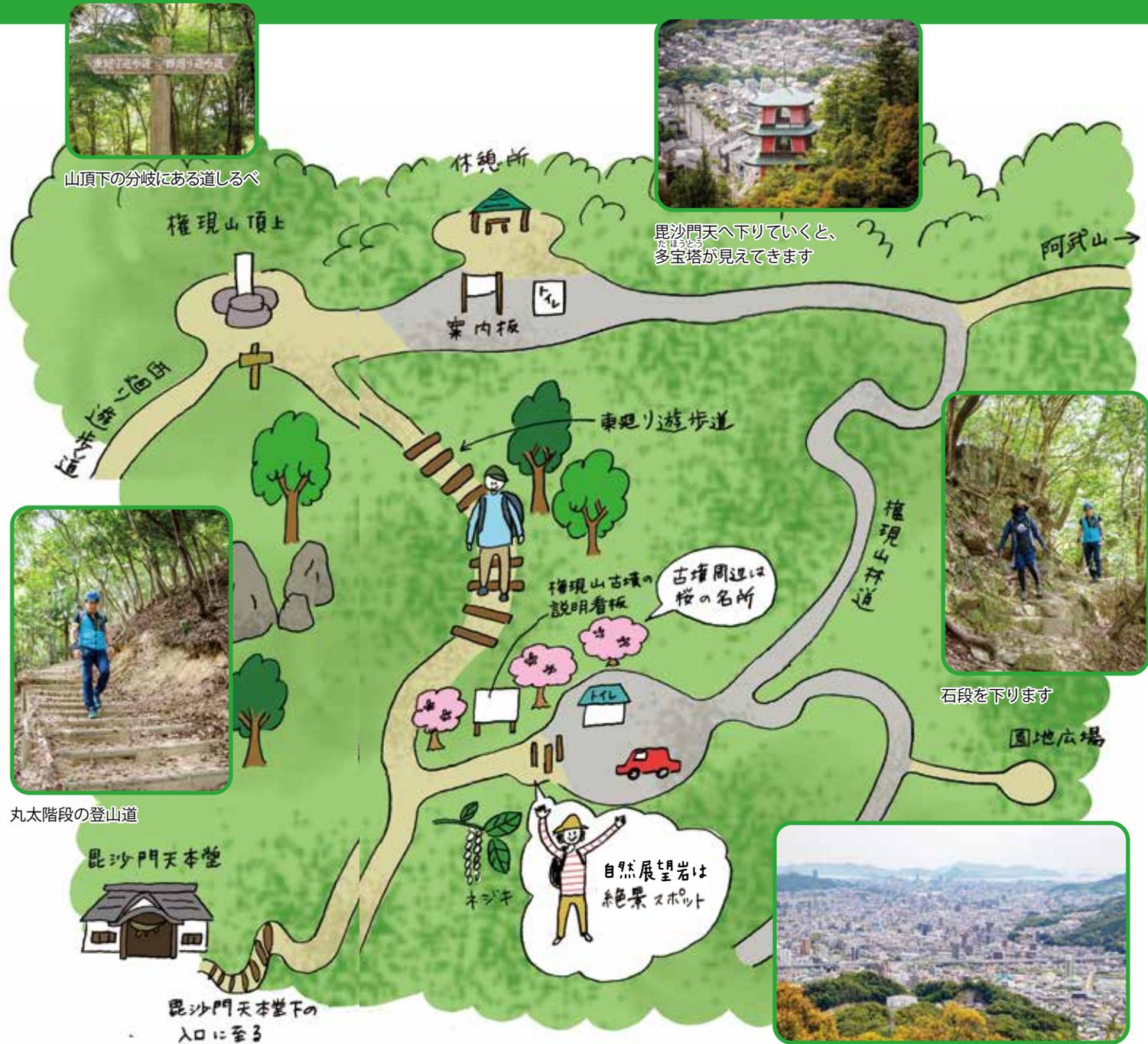
- \*8 トレイル：森林や原野、里山などにある歩くための道
- \*9 遺構：古代の人間がつくった建造物や物、生活した跡（あと）など



中腹の駐車場から権現山古墳や自然展望岩へ



登山道そばの権現山古墳



丸太階段の登山道



石段を下ります



古墳下の自然展望岩からは瀬戸内海まで見えます

## 権現山／四季の小図鑑

草花、樹木、鳥、  
そして地質のお話

権現山は主に「花崗岩」という岩石でできています。今から1億4000年ほど前に、火山のマグマが地中の深いところで長い年月をかけ、ゆっくりと冷えて固まってできた火成岩の仲間です。権現山の花崗岩は灰色の石英や白色の長石の中に、黒っぽい粒の黒雲母が混じっている黒雲母花崗岩で、広島県の中部・南部によく見られることから広島花崗岩とも呼ばれます。別名「御影石」ともいわれ、ビルの壁や墓石などにも使われる石です。毘沙門堂の本堂の上にそびえる大岩もこの黒雲母花崗岩です。

権現山は古くから毘沙門天を祀る山として大切にされており、年月を経た大きな木が多いのが特徴です。珍しい植物としては、中腹にタマミズキという大木があります。晩秋に多数の美しい赤熟した実をつけます。ギフチョウの幼虫の餌になるカンアオイという芳香が強い草も自生しています。権現山は元々、常緑の広葉樹からなる照葉樹林でシイやカシなど、どんぐりの実る木がたくさんあります。冬に赤い実を付けて縁起がいいと喜ばれるマンリョウも群れで生えています。近年、照葉樹

林に人の手が加わるようになり、針葉樹のアカマツ林が増えています。

四季の見どころは、春に山頂広場にヤマザクラやソメイヨシノが咲きます。古墳の周辺と園地広場も花見の名所です。同じ時期にコバノミツバツツジが登山道脇で桃色の可愛い花を咲かせます。秋はモミジの紅葉やカクレミノの黄葉が山頂付近などで見られます。登山道脇で鮮やかな紫色の実を付けるヤブムラサキやムラサキシキブもきれいです。

近年、鹿が増え、鹿が増えるため草花は減ってはいますが、黄色い花を咲かせるアキノキリンソウや野菊などは咲いています。中腹から山頂にかけてコシアブラやタカノツメが生えており、秋はキノコも顔を出します。

ソヨゴ、ナツハゼなど実のなる木が多いので、ヒヨドリなどの野鳥が食べにきます。コゲラやアオゲラなどのキツツキの仲間もいて、登山道でトントントン…と木をつつく音を耳にすることもあつてでしょう。美しい植物を目で見て、香りをかぎ、鳥の声を聞いて権現山の自然を五感で楽しんでみましょう。



尾根道に沿って細粒黒雲母花崗岩の巨石が連なっています。風化しやすい性質があり、内部の割れ目の周囲だけが年月を経て崩れたあとに、このような大きな岩石が残されています



3～4月頃、桃色の花を咲かせるコバノミツバツツジ。権現山にはこのほかにも、数は少ないですが珍しいヒメヤマツツジの小さな花も咲きます



5月頃に木の上で香りの良い白い花を咲かせるタムシバ。コブシの仲間です。中腹から山頂にかけてみられます



4月上旬にはソメイヨシノが満開になります。園地広場のソメイヨシノは山の下からも咲いているのが見えます。山頂付近には自生するヤマザクラと植えられたソメイヨシノの両方が咲き華やかです



オオバヤシャブシは3～4月頃に黄色の花を咲かせ、秋に付く実は緑色から段々と茶色になります。成長が早く根をしっかりと張るので、斜面が崩れないよう保護するために植えられています



オスのアオゲラ。権現山にはアオゲラのほかにひと回り小さいコゲラもいます。どちらもキツツキの仲間で、樹木の幹をくちばしでつつき、中にいる昆虫を食べます



初夏、5～6月頃につりがね状の小さな花を咲かせるネジキ。権現山にはよく似た花のアセビもありますが、どちらも毒があるので鹿が食べません。アセビとの違いは花の付く位置で、アセビは葉の上、ネジキは葉の下に花が付きます



まだ寒い2月頃から4月頃まで花を咲かせるヤブツバキ。花の奥には蜜がたっぷりあって、メジロやヒヨドリが美味しい蜜を吸いに飛んできます



花の蜜や木の実が大好きなヒヨドリ。ピーヨピーヨと大きな声で鳴くのでこの名前が付けました。春から夏にかけてはコガネムシの幼虫も食べます